

「さっぱり分からん」発言への対応 その2

～誰一人として一人ぼっちにさせない授業を目指して～

1 はじめに

2019年11月20日の授業で「さっぱり分からん」という発言がありました。2回目です。

「さっぱり分からん」発言の基本的な対応としては、全体で取り上げて、その生徒の困り感を解決しながら、本時の課題解決や本時目標に迫るとするのが基本であると考えています。今回は、TTで入っていたときに生徒に呼ばれ、「さっぱり分からん」という発言でした。授業を止めて全体に広げることができませんでした。原因を分析すると、「さっぱり分からん」発言に対する基本的な対応が頭から抜け落ちていたことです。一方、今回も実験についてのさっぱり分からん発言だったので、前回のまとめを何とか思い出して、対応しました。

2 「さっぱり分からん」発言への対応

(1) 基本的な考え方

生徒が困り感を伝えてきた場合は、それを全体で取り上げて、その生徒の困り感を解決しながら、本時の課題解決や本時の目標に迫るとするのが基本であると考えている。

今回も、せっかく「困り感」を私に伝えてきたのに、それを活かすことができなかった。

(2) 本時の授業の場合(実験のまとめで)

実験のまとめで“さっぱり分からない”発言は、スタートに戻るということから、次のように対応した。

① 何を調べるために、本実験をしているのかを確認する。

→ 「電気抵抗にかかる電圧とそこを流れる電流の強さとの関係を調べる」

本時に至るまで“電気抵抗”という部品については一切出てこない。本実験で初めてオームの法則を調べるために突然出てくるという感じである。“電気抵抗”とは何かを理解しておく必要がある。

扇風機を例に説明した。「扇風機の風の強さは、“弱・中・強”と調整することができます。風の強さを調整するためには、流す電流の大きさを調整する必要があります。電流の大きさをコントロールするための電機部品が電気抵抗です。これを使って実験します。」

② 実験方法の確認をする。

③ 実験結果を確認する

→ 実験結果が記録してなかったので、班のデータを写すように指示した。

→ データをグラフにプロットするように指示した。

→ 原点を通る理由を確認して原点を通る直線を引かせた。

④ 結論を考える

ここまで確認して、結論について考えさせた。

(3) 彼の結論は

彼は結論に「電圧を高くすると電流が大きくなる。」と記述していた。彼は結論が正しいかを確認するために私を呼んだ。隣の子に聴きなさいと促すと、隣も同じだと言った。自分で考えたのか、隣の子のを写したのかは定かではないが、例え、隣の子のを写したとしても自分が納得していればそれでよいと考えている。

本来は「比例する」と書かせたいところだが、「結論は、実験の目的について、実験結果から分かることを自分の言葉で書く」ことが重要と考えていることから、これでよいと伝えた。

3 おわりに

実験についての「さっぱり分からん」発言に対する対応は、これで良いであろう。

次回、同様の発言があったら、ぜひ全体に広げたい。